

基礎看護学演習への 臨床実習指導者の演習参加 活動報告

病院実習で学生の指導に携わっていただいている実習指導者の方々に学内の授業にも参加していただきました。その活動報告をいたします。2023年12月5日に横浜市立市民病院、横浜南共済病院、横須賀共済病院の実習指導者さんに基礎看護学の演習に参加していただきました。

《 演習参加目的 》

大学の基礎看護学演習において、臨床指導者と大学教員が協同で指導することにより、より良い看護職教育を目指す。

《 演習参加目標 》

- 1) 基礎看護学での講義や演習内容を理解し、基礎看護学を学ぶ学生のレディネスを理解する。
- 2) 演習での教授方法の特徴や工夫点、課題を理解する。
- 3) 学生とコミュニケーションを図り、互いの理解を深めるきっかけを作る。
- 4) 臨床指導者は学生に対して看護職の役割モデルをとり、キャリアパスの方向性を示す。
- 5) 臨床指導者と教員の良好な協同関係を構築する。

《 参加要領 》

- ① 事前に演習資料を臨床指導者に渡し、目を通してきてもらう。
- ② 演習前にオリエンテーションを行い、参加目的、方法、教授内容の確認を行う。
- ③ 演習開始時に臨床指導者は、学生に対し自己紹介を行う。このとき、自分が看護において関心を持っていることも簡単に紹介する。
- ④ 授業開始後は教員によるデモンストレーションを見学し、学生を誘導し、教員と協同的に指導を行う。
- ⑤ 演習時は、最初の20分は1教員に1臨床指導者がついてシャドーイングを行い、学生の動きや教員の動きを知る。残りの時間は、自分ができる範囲で学生指導に入る。積極的に学生とコミュニケーションを図る。
- ⑥ 教員は臨床指導者がシャドーイングや指導を行いやすいように配慮する。
- ⑦ 演習終了後に振り返りの機会を持ち、また授業評価アンケートを記載する。
- ⑧ 後日教員はA4用紙3枚程度に報告書(写真入り)を作成し、大学ホームページおよび病院にて公表する。

《 演習日程・科目 》

12月5日 3, 4時限 看護技術論Ⅰ 「コミュニケーション演習」



参加者で記念撮影しました。

参加者アンケート(抜粋)

学生からの感想

- ・患者さんから得たい情報を聞き出すことに加えて患者さんが気持ち良くコミュニケーションが取れるような会話の導入、相槌、反応をすることも大事だと思いました。
- ・今回のグループ演習から、患者ひとりひとりでコミュニケーションの仕方、ペース、表情などが異なるということを知ることができた。相手の患者のペースをつかみ、合わせることで患者のコミュニケーションのしやすさ、安心感につながると思った。
- ・臨床看護師さんから暗い話題になるのは悪いことではなくて、気持ちを看護師に話すことは前を向くためのステップであって、その気持ちを表出してくださったことに意味があるというご助言をいただき、考えが変わりました。
- ・信頼関係を築いていくためには、相手のことを聞くだけでなく自分のことも話していくことが大切だと気づきました。
- ・患者との会話を通しこちらの緊張や気持ちは患者に伝わり、それがコミュニケーションの雰囲気につながると思うから、言葉以外の要素というのは本当に重要だと思った。
- ・他の実習施設に実習に行った学生とのロールプレイや看護師さんとの話し合いの中で、自分になかったコミュニケーションを考えて知ることができた。
- ・今後の課題は実習に行った際どのように患者さんの話を切るかでした。今回の演習で看護師の方が、最初に時間を伝えたり、席から立つなどアドバイスを頂いたので、次の実習で実践したいと思いました。
- ・自分のことで手一杯にならずに、コミュニケーションをとる環境や、患者さんの反応にも意識を向けてコミュニケーションをとることの大切さに気付かされました。

参加者アンケート(抜粋)

臨床指導者からの感想

学生のレディネスや学びの状況を理解できた

「基礎看護学実習に来る学生さんがどんなところで迷いをもっているのか、学内実習を経てコミュニケーションの取り方を軌道修正して次の実習に向けて備えてきてくれることを知れました」
「基礎看護学ってこういうものだったなと思い出しました。学生さんがどこまでのピュアで一つ一つ丁寧に学んでいるなと思いました」

演習の特徴や工夫点が理解できた

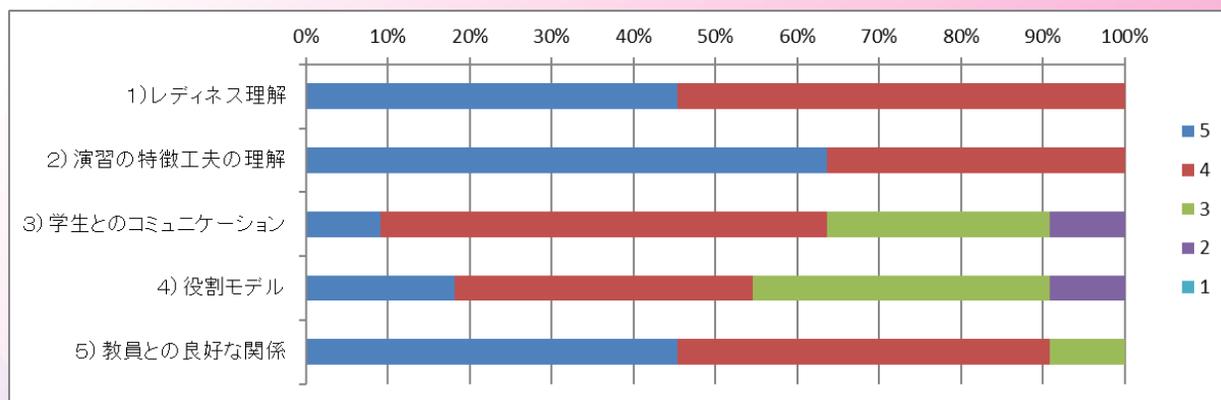
「ロールプレイングすることで実際にナースと患者と距離感や視線など俯瞰的にみることができた」
「学生から主体的に発言や行動を促すような関わりの仕方を学べた」
「学生が何を気にしているのか、不安に思っているのかがわかった。ナースがそこにいけば軽減できると思った」

臨床指導に活かしたい

「学生はいろいろな事を考えて頑張っていることを感じ、助言や実際の現場でのことを伝えていくことが大事だと感じた」
「学生さんの考えや思い、悩みを聞くことで学生理解につながった。実際に臨床指導の場でも今回の気づきを意識し、学生さんに積極的に声かけていきたいです」
「学生が実習の中で感じている葛藤など話せて良かった」
「先生のお話し方や、聞き出し方から学生さんへの声掛けの仕方やヒントの出し方を学べました」

その他

「モデルとなったかは定かではないが『自分ならこうする』という事を伝えることが出来た」
「楽しい演習で私も学ぶことが出来ました。このような場を作っていただきありがとうございます」
「病棟での指導も3年生や4年生と高学年の指導することが多く、久しぶりに基礎看護に関われ、学生の考えやコミュニケーションの工夫などを感じる事が出来ました」



臨床指導者の自己評価の比率（「よくできた」が5,「できなかった」が1）

実習指導者のみなさん、演習参加ありがとうございました。
来年度も是非お願いします。 基礎看護学一同 代表水戸優子